

水泳部

部長 野川 春夫
副部長 内田 桂吉
総監督 鈴木 陽二
監督 鈴木 大地

【活動環境】

当部は校内の温水プールで、朝は午前6時30分～8時、夕方は午後4時半～6時半の2回練習を行っている。水曜日および土曜日は1日1回練習となり、年間を通じて週に10回のトレーニングが基本となっている。水曜日は新習志野駅前にある千葉県国際水泳場でトレーニングを行うこともある。

本学のプールは温水施設ではあるが、プール内の室温が外気温と変わらない状態なため、例年厳寒期には水温も低くなり寒さでプール使用ができなくなってしまう。したがって民間施設での練習となり、施設の営業時間前の練習となるため早朝となる。まだ夜が明けぬ時間帯に酒々井を出て、高額な交通費および使用料を払いながらの練習となる。また夕方の練習はできないため1回練習を余議なくされてしまう。ライバル校は50メートルの室内温水プールを保有しており、何不自由なくトレーニングを行えるので、環境ではやや遅れをとっている。

【指導理念】

スイミングクラブの営利目的での指導とは異なり門戸は広い。したがって入部希望者は誰でも参加できる。そのため日本選手権で入賞を狙うような選手から練習についていくのがやっとという選手まで技能レベルは幅広い。

チームとしてはインカレで総合成績上位に食い込むのが目標であるが、トレーニング環境、部員数等勘案すると、当面は個人で入賞できるような人材を育成し、そこから総合的に発展していけるよう長期計画を練っている。

また、水泳は個人競技とされているが、チームとしての取り組みを主眼に置いている。練習や試合は一人で行うことはできない。個人としての自主性とチームの一員とし

ての協調性の双方を大事にしており、個人が最大限の努力を行い、その結果チームに何らかの形で貢献していけるよう配慮している。水泳における限界の挑戦を後押しするとともに、部活動を通じての人間形成を心がけている。

【活動および成績】

平成22年度はチーム一丸となり、充実した1年を送ることができた。それぞれの大会や合宿、日々の練習において、1つ1つを無駄にすることなく全力を尽くすことができた。夏に開催された関東学生選手権では、出場選手の多くが自己記録を更新し、男子は2部優勝を果たした。3年まで不調だった4年生も数年ぶりに自己記録を更新するなど、嬉しい出来事が多々あった。ただ、最後のシーズンだから頑張るのではなく、1年1年ベストを更新していく意気込みが欲しいと感じ、そのためには普段からどう指導してくのがよいか？よく考えていきたい。

来年は1部に上がったものの、強豪校がひしめきあい厳しい戦いとなることが予想される。大会前に慌てるのではなく、日頃から危機感を持って臨みたい。部員全員それぞれが目標をかかげ、向上心を忘れずに、また新たな気持ちで活気のある新シーズンを展開していく所存である。

1) 大会報告

1. 1月10日 新年フェスティバル（千葉県国際水泳場）
2. 1月23～24日 千葉県短水路選手権（千葉県国際水泳場）
3. 2月20～21日 第50回日本短水路選手権（辰巳国際水泳場）
男子3名、女子1名、
4. 3月1日 千葉県ジュニアチャレンジ大会（千葉県

- 国際水泳場)
5. 4月13～18日 日本選手権水泳競技大会(辰巳国際水泳場)
男子8名女子2名, OB1名参加.
 6. 5月9日 セントラル招待(千葉県国際水泳場)
 7. 5月15～16日 千葉県春季大会(千葉県国際水泳場)
 8. 6月4～6日 ジャパンオープン2010長水路(辰巳国際水泳場)
男子9名女子2名参加.
 9. 6月13日 千葉県ジュニア大会(千葉県国際水泳場)
 10. 6月27日 関東学生夏季公認記録会(相模原グリーンプール)
 11. 7月4日 五大学対抗戦(神奈川大学)
 12. 7月10～11日 千葉県選手権(千葉県国際水泳場)
 13. 7月26日 千葉県ジュニアチャレンジ大会(千葉県国際水泳場)
 14. 8月2～4日 関東学生選手権(辰巳国際水泳場)男子2部優勝一部昇格
 15. 9月3～5日 日本学生選手権(辰巳国際水泳場)
 16. 10月21～22日 FINA ワールドカップ東京大会(辰巳国際水泳場)
 17. 12月5日 ウィンターカップ(相模原グリーンプール)
 18. 12月5日 千葉県ディスタンス大会(千葉県国際水泳場)
- 2) 合宿報告
- 3月 春季合宿@福井
 - 5月 ゴールデンウィーク合宿@玉川大学
 - 8月 夏季合宿@銚子商業
 - 12月 冬季合宿@宮城県白石